

テスト名	Teaching Knowledge Test (TKT)		
1. 運営事業団体	University of Cambridge ESOL Examination		
2. テスト作成母体	University of Cambridge ESOL Examination		
3. 主たる受験対象者	英語母語話者・英語非母語話者の教師全般(経験などは問わない) 小・中・高・大・成人学習者など、あらゆる教育レベルで指導されている英語教員の経験はあるが、正式なトレーニングを受けたことがない教員の方 英語教育に関する知識を復習したい教員の方 経験が少ない教員の方、または全くないが将来教員を目指したい方 ※英語能力の証明書は特に必要ないが、TKTの受講者はCEFRのB1レベルに相当する中級レベルに達していることが望ましい。		
4. 目的	<p>■ 教師が自信を持って英語を教え、また教職に就くチャンスが増えるようにする。あらゆる地域・年齢層を対象に英語教育を行う際に、教員が身に付けていなくてはならないもっとも基本的な知識に焦点を当てる。</p> <p>■ 次のような点を理解する助けとなる。</p> <p>(1) さまざまな教授法, (2) 指導用言語, (3) 教材論, (4) 授業計画の作成要領, (5) ニーズに対応するクラス運営の方法</p>		
5. 構成概念の構成 (測定する能力)	3つの基本的なモジュールがあり、これらを1度にまとめて受験しても別々に順不同で受験することも可能。その他に専門モジュールもあり、自由に受験可能。		
	モジュール1: 言語と言語学習・言語教授に関する知識と背景	モジュール2: 授業計画と言語教育のための教材活用法	モジュール3: 指導・学習プロセスの管理(教師と生徒が用いる教室英語など)
6. テストの性質(テキスト・タスクの性質など)・項目数・受験時間	80問80分 3~5択の客観問題	80問80分 3~5択の客観問題	80問80分 3~5択の客観問題
	問1~16 文法用語の知識	問1~7 アクティビティと指導上の狙い	問1~7 授業で用いる教師言語とその機能
	17~21 発話機能の分類	8~14 指導用言語の狙い	8~16 授業で用いる頻出表現
	22~29 発音	15~20 指導用言語の狙い	17~21 初級成人学習者に用いる教師言語
	30~35 ライティングの種類	21~29 授業計画に関する用語	22~27 指導に生徒の言語を使う目的
	36~40 言語スキルに関する知識	30~36 授業計画(読解スキル)	28~32 上級学習者の発言意図、理解
	41~46 学習意欲を高めるテクニック	37~41 状況に応じた評価理由	33~40 文法上の誤りに関する分類
	47~53 学習者の選考の類型化	42~49 語彙に関する本の構成	41~49 教師の役割と教師アクティビティ
	54~59 学習者の学習戦略	50~56 辞書にある情報の活用	50~55 生徒のグループ分けのコツ
	60~66 教授法の理解	57~64 トピック別書籍の活用	56~63 グループ及びペアワークの問題点解決
	67~73 発話練習のタイプ	65~72 教科書演習と教材	64~70 クラス状況に応じた教師対応のコツ
	74~80 アクティビティをタスク別に分類	73~80 教材の種類と特徴	71~75 生徒の誤りを訂正する方法
			76~80 フィードバックと狙い(書くスキル)
7. 採点基準・得点	1問につき1点で、80点満点		
8. 評価・Feedback	合格・不合格ではなく、各モジュールの成績がBand 1 (limited) ~ 4 (extensive) で表され、該当のBandで証明書が発行される(受験後約2週間)。 1: limited knowledge 2: basic, but systematic knowledge 3: breadth and depth of knowledge 4: extensive knowledge ※Band 3には少なくとも80点中45~50点が必要とされる。		
9. 受験者数	世界で595ヶ所の受験地(日本では7ヶ所で受験可能)		
10. 受験料	受験地によって異なるため、各会場に問い合わせる必要がある。Cf. British Council (東京・大阪) ¥5,250		
11. ウェブサイト	http://japan.cambridgeenglish.org/exams/tkt/index.php (日本語) http://www.cambridgeenglish.org/exams-and-qualifications/tkt/ (英語)		
12. その他(変化・特徴など)	受験メリット: (1) 持っている知識を更新、確認でき、広げることができる。(2) 自信とモチベーションを高めることができる。(3) 世界標準資格を取得できる。(4) 授業の助けとなる・授業の幅が広がる。(5) 英語で英語教授知識を学習するため、英語で授業を行う準備ができる。(6) 英語がALTとの共通言語となり、授業の準備・実施をより効果的に行うことができる。(7) 英語教員採用や研修対象者選定時のベンチマークとして海外で活用されている。		
13. 感想	歴史: 世界的なニーズにより開発され、2005年にスタートした。 http://www.cambridge-info.org/受験者の皆さんのコメント/		